



ACP総合サイトは、日本スポーツ協会のホームページから閲覧できます。全国各地の実践事例の動画や、親子で視聴できるアニメーションも収載。デジタル版のガイドブックもあるので、パソコンやタブレットなどで全ページを手軽に読むことができます。



2種類のガイドブックを、パソコンやタブレット、スマートフォンで読むことができます。



▲アクティブ・チャイルド・プログラムを取り入れた全国各地の実践事例を紹介。動画も視聴できます。



▲2種類のガイドブックに掲載している運動遊びと伝承遊びを紹介。遊び方等も動画にまとめています。



▲大人と子どもで一緒に見て、からだを動かすことの大切さを確認できるアニメーションもあります。



作成ワーキンググループ 班員

- 部長 富田 寿人 (静岡理科大学 情報学部)
- 部会員 春日 晃章 (岐阜大学 教育学部)
- 窪 康之 (国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部)
- 佐々木 玲子 (慶應義塾大学 体育研究所)
- 佐藤 善人 (東京学芸大学 教育学部 芸術・スポーツ科学系)
- 内藤 久士 (順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科)
- 森丘 保典 (日本大学 スポーツ科学部)
- 吉田伊津美 (東京学芸大学 教育学部 総合教育科学系)
- 吉田 繁敬 (アイ・プラス株式会社/東山スポーツ少年団)
- 青野 博 (日本スポーツ協会 スポーツ科学研究室)

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム

- 発行日 平成27年 2月28日 (第1版第1刷)
- 平成28年 6月29日 (第2版第1刷)
- 平成30年 5月16日 (第3版第1刷)
- 発行 公益財団法人日本スポーツ協会
- 問合せ先 公益財団法人日本スポーツ協会 地域スポーツ推進部 少年団課
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
Tel 03-3481-2222 <http://www.japan-sports.or.jp>
- 制作 株式会社サンライフ企画
<http://www.sunlife.net>

よい指導者としての観点

- 1 多様な動きを経験させる（その大切さを保護者に伝える）**
楽しく遊ぶことを通して多様な動きを経験する
- 2 一定の身体活動量と活動強度を確保する**
楽しく遊ぶことを通して活動量と活動強度を確保する
- 3 発育発達の個人差に配慮する**
発育発達速度の個人差を理解する、時には「見守る」「待つ」
- 4 次々にプログラムを展開させる（飽きさせない）**
多様なプログラムを設定する、ゲーム性の高い遊び、「レパートリー」×「バリエーション」
- 5 できるようになったことを認めてあげる**
肯定的な言葉の積み重ね、こころや社会性の成長もほめる、具体的にほめる
- 6 いつも元気で楽しい雰囲気をつくる**
表情や感情の表現に気がつかう
- 7 こころの発達や社会性の獲得にも配慮する**
運動有能感の形成、約束、話し合い
- 8 異年齢交流を利用する**
思いやり、リーダーシップ、年上の子どもに対する指導的な配慮

指導のコツ

- 1 まずはからだを動かす（時にはあいさつもそこそこに）**
集まった子どもから遊びの輪を広げる
- 2 環境を通じて動きを引き出す**
わかりやすい目標を示す、その都度 運動の成否を示す
- 3 合い言葉やキーワードの活用**
課題を達成した際の合い言葉を決めておく、ハイタッチやポーズ
- 4 約束**
子どもと共通認識をもつ、子どもの自律を促す
- 5 話し合い**
指導者は「見守る」「待つ」、普段から遊びの中で作戦タイムをとる
- 6 「指導日誌」の活用**
計画的な指導のため、指導者間で情報を共有する
- 7 子どものほめ方、しかり方**
具体的に、いろいろな成長をほめる、しかるのは反道徳的なことと危険なこと

安全管理チェックリスト

- 1 場所の選定** ✓ 記入欄
 - 1 活動内容に応じた広さ、環境を整える**
(適切な広さ、レイアウト、床/地面)
 - 2 道路との位置関係を確認する**
(周辺の交通量や道路事情、子どもの動線)
- 2 施設や用具等の確認**
 - 1 施設（固定遊具等）を確認する**
 - 2 危険な場所を確認する**
 - 3 タバコ、ガラスなどを除去する**
 - 4 遊具、用具を確認する**
- 3 緊急対応**
 - 1 近隣病院を確認する**
(診療科目、診察時間、連絡先)
 - 2 関係者の連絡先を確認する**
(協力体制の確立)
 - 3 緊急時対応マニュアルを作成する**
(役割の確認)
- 4 幼児期の発達特性に応じた配慮事項**
 - 1 定期的に休息をとる**
(水分補給をする、木陰で休む)
 - 2 幼児の様子を常に確認する**
(活動中の表情や動きを注意深く観察する)
 - 3 環境条件を確認する**
(暑熱環境下で無理をさせない)
 - 4 過度な負荷をかけない**
(多様な動きを楽しく経験させる)